

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 特別名勝 栗林公園を歩く

講師 川田 一郎

(栗林公園観光事務所 造園課課長)

平成26年11月23日(日)

共催 高松市歴史民俗協会
高松市文化財保護協会
高松市教育委員会

○庭園のお話

・西洋の GARDEN

〔gar〕＝防衛するという意味 〔eden〕＝悦び、楽園

・日本の庭と園

〔庭〕＝もとは「なわばり」人間の生活環境という幅広い意味

〔園〕＝植物を栽培する囲まれた場所 園＝植物 囿＝動物 圃＝野菜

「庭園」という言葉は、明治時代に造られた造語。

【参考】林泉、山水、泉石などの表現

・日本庭園の歴史

〔飛鳥・奈良時代〕舟遊式庭園、曲水など、蘇我馬子↓島の大君

〔平安時代〕寝殿造り式庭園（後期）浄土式庭園

「作庭記」＝庭造りの秘伝書

〔鎌倉・室町時代〕武士の台頭 書院造

禅宗と枯山水庭園 夢想疎石

〔安土桃山時代〕茶庭

〔江戸時代〕池泉回遊式庭園 小堀遠州

「明治・大正・昭和」小川治兵衛（植治）、重森三玲

・江戸時代の回遊式大名庭園 それまでの庭園形式を総括する集大成である。

参勤交代

一六五七年の明暦の大火以降、上屋敷、中屋敷、下屋敷

・大名庭園

① 大名の交際舞台

將軍を頂点とする武家社会で不可欠な行事、

儀礼の場

② 大名家内部の儀礼を行う場

君主たる殿さまのありがたみを感じる場

○栗林公園の歴史

・一六三〇年代 生駒高俊公の時代に大名庭園としての築庭

西嶋八兵衛

松平初代 頼重の利用

松平二代 頼常の拡大

松平三代 頼豊の充実

松平五代 頼恭の改修

・一七四五年 松平頼恭公のときに完成 その後も薬園（一七四八〜）

「栗林荘記」 儒学者 中村文輔 三千二百八十一字の漢文 六十景

・明治八年 県立公園

※日本三名園 教科書の記載

明治四十三年 高等小学読本 卷一 第六課 公園

「世に聞こえたるは、偕楽園、兼六園、岡山後楽園を日本の三公園と称す。然れども高松の栗林公園は木石の雅趣却つてこの三公園に優れり。」

・大正十一年 名勝指定

・昭和二十八年 特別名勝指定

※一歩一景といわれる庭園美をボランティア・ガイドの解説付きで、ご堪能ください。

栗林公園 7つのキーワード

■ 文化財庭園で日本最大の大きさ

全国で二百五箇所指定されている名勝庭園（文化財庭園）の中で最大の広さ 七十
五ヘクタール（東京ドーム十六個分） 平庭の広さは、十六ヘクタール（東京ドーム
三・五個分）

■ お庭の国宝

・全国で特別名勝は二十四庭園 そのうち京都の庭園が十三ですから地方では数少
ないお庭の国宝（特別名勝）。四国でただ一つ。

・ミシユラン・グリーン・ガイド・ジャポンで三つ星（わざわざ旅行する価値があ
ると評価）を獲得。（松★★★ 掬月亭★★★ 偃月橋★ 飛来峰★）合計9つの★

■ 松の魅力

名は栗林といいながら、築庭当初から松で構成。手入れ松千本の樹芸は、他に例を
見ない。

■ 全国的なネームバリューをもつ平賀源内も活躍した場

平賀源内（一七二八〜一七七九）は一七五九年から二年間 栗林公園内の薬園で薬草採集班頭取として活躍する。

■ 茶の湯とのつながり

茶の湯の王道をいく三千家（千利休のひ孫の代になり、表千家（紀州の茶道頭）、裏千家（加賀の茶道頭）、武者小路千家（讃岐高松の茶道頭）と三千家に流派が分かれた）。その三家元のうち、二つの家元と讃岐は深い関係。（生駒時代―表千家、松平時代―武者小路千家）

茶の湯に関係の深いお庭焼（理平焼）もこの場から。

■ 築庭に百年以上の歳月が

水戸偕楽園で九年、岡山後楽園で十三年ですが、この栗林公園は一六三〇年代に大名庭園としての築庭がはじまり、一七四五年に六十景を命名し完成する。長期にわたり拡大、修築を繰り返した栗林公園の謎とその魅力。



南湖を周遊する和船



涵翠池と掬月亭

■ この空間の最大の魅力は
庭園空間は、その造形美と時間の美（エイジングの美）を楽しむ場といわれる。侘
びさびのさびにあたる時間の美こそがこの空間の最大の魅力。

1 檜御殿跡

かつて藩主の別荘であった檜御殿は、初代藩主松平頼重以来少なくとも二百年間、高松藩政の舞台裏として、またある時は表舞台として重要な役割を演じた、由緒ある建物でした。しかし、明治四年（一八七一）三月に解体され、市内の一人の所有となりました。

2 お手植松

園内に皇室の方々が来園されたときにお手植えされた松が六本あります。北庭にあるのが秩父宮殿下、ちちぶのみやでんか高松宮殿下、たかまつのみやでんか英国エドワード・アルバート王子殿下、えいこくエドワード・アルバート王子殿下久邇宮殿下、くのみやでんか同妃殿下、どうきでんか北白川宮大妃殿下が植樹された五本で、掬月亭の南には、明治三十六年（一九〇三）に当時皇太子だった大正天皇がお手植えされた松があります。



お手植松

3 鶴亀松（百石松）

つるかめまつ ひやつこくまつ

鶴亀松という縁起の良い名前は、約百十個の石で造った亀を思わせる石組みの上に、鶴が舞うような形の松があることに由来しています。

この松は、もともと松平家の家老で五百石を給せられていた稲田家の庭にあつたものです。同家の第六代、稲田外江貞一はこの松を格別愛していました。ある時、松の手入れに熱中しすぎて、時が過ぎるのも気づかず登城に遅刻してしまいました。このことが七代藩主松平頼起よりおきの勘気に触れ、禄高百石を減ぜられたことから、別名「百石松」とも呼ばれています。



鶴亀松

4 箱松・屏風松

はこまつ
びょうぶまつ

南側の背丈の低い松を箱松といい、樹冠が長方形の立方体に仕立てられ、箱のような形をしていることからそう呼ばれています。北側の背丈の高い松を屏風松といい、葉先が大缺で刈り込まれたように垂直に揃い、緑の屏風を立てたように見えるので、そう呼ばれています。

これらの木の形は栗林公園独特のもので、三百年以上にわたる手入れの積み重ねによってこのような枝振りが保たれています。



箱松

5 南梅林

みなみばいりん

南梅林には七十六本の梅の木があります。一月下旬から三月上旬にかけて赤や白に

咲く梅の花は、香りと共に春の訪れを告げてくれます。

6 見返り獅子 みかえ じし

獅子が後ろを振り向いている姿に似ているところから「見返り獅子」といわれています。これらの石は、二代藩主松平頼常よりつねの時代に、難民救済策として、珍しい石や木を持ってこさせ、持ってきた者に食料などを与えたといわれています。

7 日暮亭 ひぐらしてい

旧日暮亭が園外に移された跡地に、明治三十一年（一八九八）、茶道の石州流せきしゅうりゅうの茶室として建てられました。中には茶室が五部屋あり、そ



日暮亭

の真ん中に水屋が設けられるなどの工夫がされており、東側、西側にそれぞれ茶室の庭である露地が設けられています。

8 旧日暮亭きゅうひくわてい

高松藩の二代藩主松平頼常よりつねの時代に、南庭の東南の隅に「考槃亭こうはんてい」という茶室がありました。その後、この茶室は「日暮亭」と名前を変え園内の別の場所に移され、更に明治初めには園外に移されましたが、昭和二十年（一九四五）、現在の場所に再び移築されました。その後、長らく「新日暮亭」と呼んでいましたが、建物の沿革上、これを「旧日暮亭」と改称しました。茶道・三千家さんせんけの一つ武者小路千家むしやこうじが誕生した頃の造りともいわれ、伝統的な大名茶室を今に伝える全国でも数少ない貴重な茶室です。



旧日暮亭

9 鳳尾塙 ほうびろう

幹の先に広がるソテツの葉の様子が、鳳凰が羽を広げている姿に似ていることから、この名前がつけられたといわれます。このソテツは薩摩藩（今の鹿児島県）島津家から贈られたもので、江戸時代では極めて珍しい植物とされていたソテツが二百五十平方メートルの岡に群植されたのは、当時としては偉観であり、藩主松平侯の権勢を内外に誇示するに足るものでした。元禄十三年（一七〇〇）の絵図にも描かれており、樹齢は三百年以上ではないかともいわれています。昭和三十七年（一九六二）四月、県の天然記念物に指定されました。



鳳尾塙

10

根上り五葉松
ねあが ごようまつ

天保四年（一八三三）、高松藩九代藩主の松平頼恕よりひろが十一代將軍の徳川家斉いえなりから賜った鉢植えの盆栽を地面に植えたため大きく成長したといわれています。幹が地面から一メートルほど上がつており、この部分に接ぎ木した跡が残っています。今では、高さ約八メートル、幹の周り
は約三・五メートルにもなっています。

11

掬月亭
きくげつてい

掬月亭は、今から三百年以上前、江戸時代初期に建てられたといわれています。中国・唐の時代の詩人、于良史うりょうしの「春山夜月しゅんざんやげつ」という詩の中の「水を掬えば月が手にある」という一節から「掬月亭」と名が付けられました。「数奇屋風すきやふう」と呼ばれる建て方で、園内何処からでも出入りできるよう四方に正面があり、江戸時代の歴代の藩主の



根上り五葉松

茶室としても使われ、「大茶屋」おおぢやとも呼ばれていました。当時は今より二つ建物が多く、建物全体を上から見ると北斗七星に似ていたことから「星斗館」せいとかんともいわれていました。

雨戸の戸袋を少なくするため「戸廻し棒」を設けるなどの工夫があり、床下を低くおさえているため、まるで船に乗っているような気分を味わえます。

壁面が少なく、風通しを良くした夏向き
の建物で、特に、初筵観しよえんかんにある床の間は、
背面も透かしており、そのデザインは現代
建築にも応用されています。

掬月の間から南湖を望む景観は、絶景と呼ぶにふさわしい素晴らしさです。



掬月亭

1 2

楓岸ふうがん

タカオカエデが多く植えられている場所で、目に鮮やかな春の新緑の季節はもちろ
ん、十一月下旬の紅葉の頃には色鮮やかな景色が広がります。南湖の向こう岸から楓
岸の方を見ると、湖面は紅葉の色に染まり、その美しさは例えようありません。香
川県の紅葉前線の標本木もここにありません。

1 3

吹上ふきあげ

かつては、ここから水が湧き出ていて園内の水源となっていました。かつてはこの
吹上以外に二か所ほど主要な湧水源がありました。現在はそのいずれも枯渇してし
まい、二つの井戸から一日約千八百トンの水を汲み上げています。江戸時代にはこの
場所に考槃亭こうはんていという建物がありました。

14

飛来峰ひらいほう

富士山に見立てて作られたといわれ、山頂近くにある石組みは山が崩れるのを防ぐとともに、富士山の雪を表したものではないかといわれています。絵葉書やパンフレットなどでは、この飛来峰の頂上から掬月亭を眺める写真がよく使われています。

15

芙蓉峰ふようほう

この築山は、梅林橋あたりから見ると富士山の形をしているので、富士の別名である「芙蓉」の名がついたとされています。芙蓉峰から望む北湖は、紫雲山を背景とし、右に前嶋ぜんしよ、左に後嶋こうしよ、中心には紅の橋である梅林橋という美しさです。また、右には箱松、屏風松が重なるように見え、全体的には明るく開放感のある景観になっています。



飛来峰から見た南湖

【参考文献】

栗林公園ホームページ

特別名勝栗林公園 わくわく探検隊

二〇一二年三月三十一日発行 香川県（栗林公園観光事務所）
讃岐の名園紀行 栗林・玉藻編 平成二年一月二十日発行 長岡公

11月23日(日) 栗林公園からの復路

◆ JR 高徳線

(栗林公園北口駅) (高松駅)

12:37 発 → 12:43 着

13:19 発 → 13:25 着

◆ ことでん琴平線

(栗林公園駅) (瓦町駅)

12:05 発 → 12:08 着

12:20 発 → 12:23 着

次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 多肥周辺を訪ねる

とき 平成26年12月21日(日)

9:30～11:30頃

集合場所 桜木神社

講師 泉川 利雄さん

☆広報「たかまつ」12月1日号に開催案内を掲載しますので、ご覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、文化財課 (TEL 839-2660「午前7時30分～開始時間まで」)でお知らせします。(電話が通じない場合は、「実施」です。)

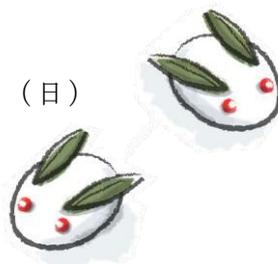
★次回の交通案内★

◆ ことでんバス

〈レインボー・サンメッセ 川島・フジグラン十川行き〉

(高松駅) (瓦町) (桜木神社前)

8:15 発 → 8:25 発 → 8:46 着



「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の
端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつ
けましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。